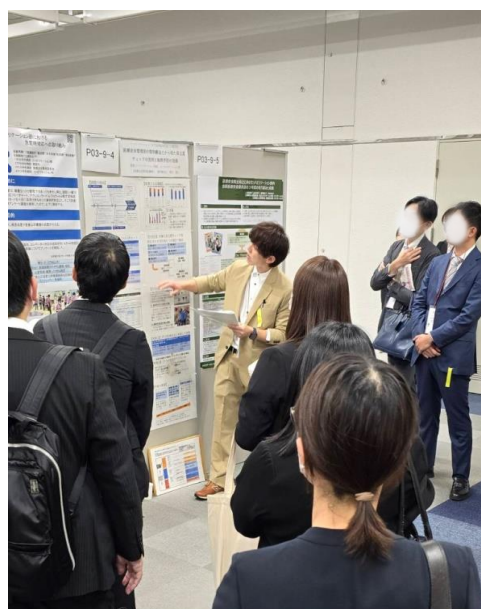
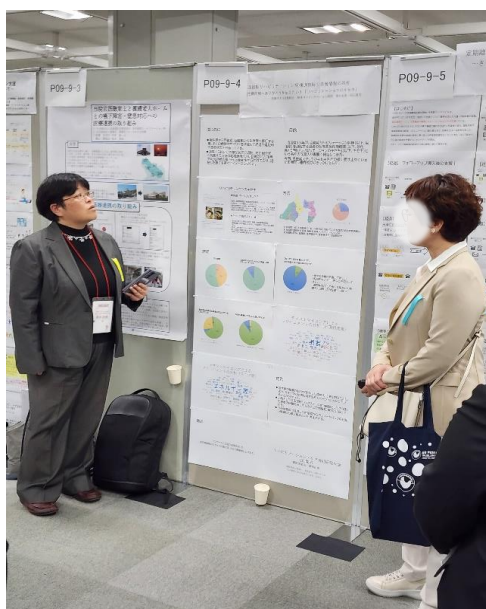


学会発表！ 患者さんの「安全」と「回復」を 支える取り組みをご紹介します

11月21日・22日に開催された「リハビリテーション・ケア研究大会 2025 in 大阪」にて、リハビリテーション部より2題発表しました。
「専門家の視点を活かした独自の安全対策」と「心温まる病院連携」が評価されました！



テーマ	どんな取り組み？	患者さんと地域にとってのメリット
安全対策の工夫	患者さんの「自分でできること（自立度）」を細かくチェックする表を導入。多職種で共有することで、転びやすい場所や動作を事前に把握し、チームで危険を減らす仕組みを強化。	入院中の大きな転倒が約12%減少。スタッフ全員が「どうすれば安全か」を共通の言葉で話し合えるようになりました！
感謝を伝える連携	回復期を退院される際、「回復の様子」をまとめた写真付きのお手紙「リハビリテーションのキセキ（奇跡・軌跡）」を、紹介元の急性期病院に郵送。	回復した姿を知ること、急性期病院のスタッフの方々も「元気が出た」「やりがいにつながる」と喜んでくれています。病院同士の温かい信頼関係を築いています。